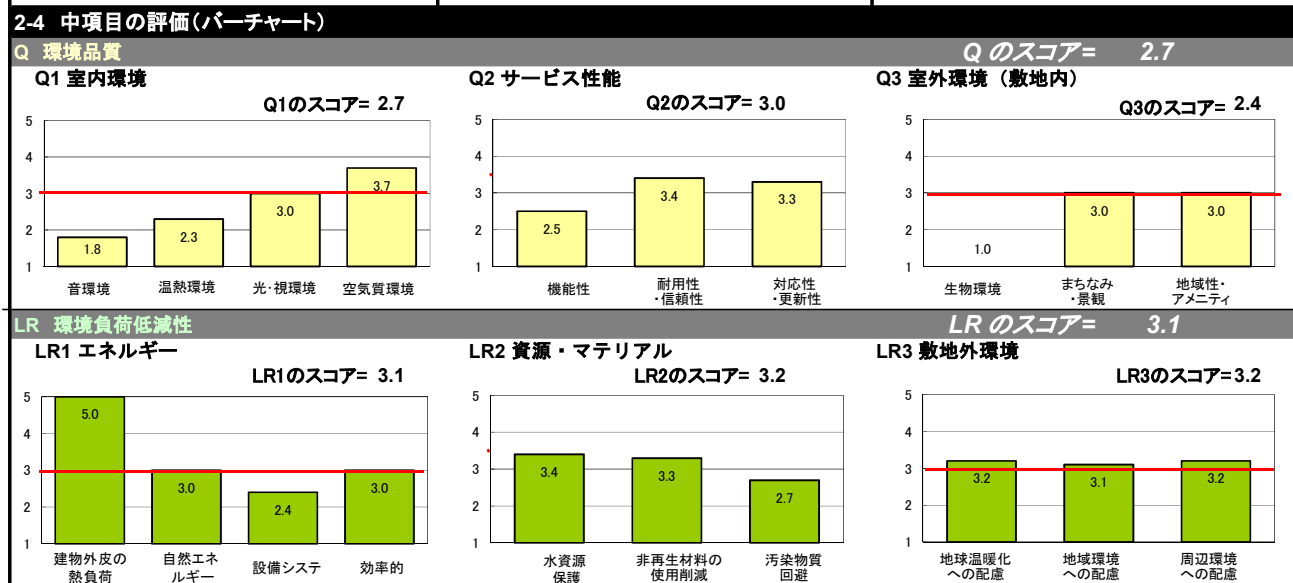
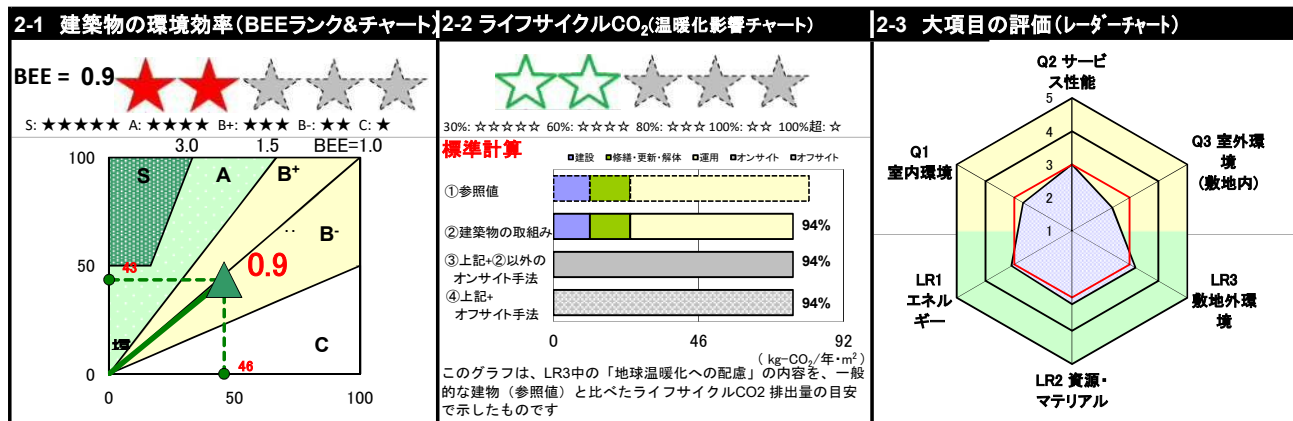


CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 評価マニュアル(2016年改訂) ■使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	名古屋市博物館 仮収蔵施設 整備工事		階数	地上3F
建設地	名古屋市瑞穂区瑞穂通一丁目27-1、東栄町一丁目1-1他		構造	S造
用途地域	第1種住居地域、商業地域、近隣商業地域、防火地域、準防火地域		平均居住人員	483 人
地域区分	6地域		年間使用時間	2,344 時間/年(想定値)
建物用途	集会所		評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年9月	予定	評価の実施日	2022年10月27日
敷地面積	19,239 m ²		作成者	
建築面積	1,382 m ²		確認日	2022年10月27日
延床面積	4,072 m ²		確認者	



3 設計上の配慮事項		
総合 ライフサイクルCO ₂ 排出量を94%に抑制した。 BPI _{lm} =0.52, BEI _{lm} =0.91 ガス燃焼設備の使用なし。		その他 特になし。
Q1 室内環境 天井裏材を含む使用建材はF☆☆☆☆を使用した。 館内禁煙とし、空気質環境に配慮した。	Q2 サービス性能 基準法の1.25倍の耐震性能で耐用性・信頼性に配慮した。	Q3 室外環境(敷地内) 2階ホワイエには大開口部設置で開放的な空間を計画した。
LR1 エネルギー BPI _{lm} =0.52, BEI _{lm} =0.91	LR2 資源・マテリアル 過半に節水機器及び省水型便器を採用した。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ 排出量を94%に抑制した。 ガス燃焼設備の使用なし。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい

重点項目スコア・結果シート

名古屋市博物館 仮収蔵施設 整備工事

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.0
LR1	エネルギー	3.1	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.2	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				1.3
Q3.1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.045	
3. 循環型社会				3.3
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.3	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.0



2. 自然共生

評価点 = 1.3



3. 循環型社会

評価点 = 3.3



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ 3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。